

「ヒバクシャ国際署名」を すすめる岩手の会ニュース

第19号/2020・7・11

編集発行：ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会
事務局：岩手県原爆被害者団体協議会 ☎019-622-4635



7月4日(土)、県高校会館ホールでヒバクシャ国際署名「学習講演&署名ラストスパートのつどい」が開催され、加盟・賛同団体から55人が参加した。

講師：高橋悠太さん(慶應義塾大学2年。「核政策を知りたい広島若者有権者の会」(カクワカ)共同代表)がオンライン配信で「出会いに生かされてー19歳の眼差しー」のテーマで、61枚の写真を写しながらトークした。中・高時代から「人はどう生きるべきなのか」「社会はどうあらねばならないのか」自問自答し、坪井直さんなど広島原爆被爆者とどう向き合うか、「継承」とは？そして、問題に出会い、当事者から学ぶ、他者の価値観に触れる/対話する、実際のアクションに移してみる～社会参加・政治参加する…と、国連本部、各国の大使館訪問での出会いなどから、「アクションの糸口を自発的に模索」し、「立つことに意味がある」と語り、最後は Small is Beautiful(小さきものこそ美しい)で結び、参加者から共感と感動の拍手が送られた。

講演後の「核兵器廃絶へ！トークリレー」では、4～5月ニューヨークのNPT再検討会議、原水爆禁止世界大会 inNY へ参加予定だった4人が核兵器廃絶への思いや決意をスピーチした。「つどい」終了後、オンラインを通

じて講師の高橋悠太さんと対話する場面では、講師と4人の思いと決意を共有できた。一写真左から、三輪音葉さん(生協連・大学3年生)、佐藤愛理さん(いわて生協) 斉藤 愛さん(高校生平和大使・高校3年生)、荒川博志さん(岩手民医連)一

最後に、幹事団体事務局の県生協連吉田敏恵専務理事から署名の到達が19万2千筆を突破し、岩手の会としての最終集約締め切りを9月10日にする「今後の取り組みと最終集約について」が報告、全員の拍手で確認され「つどい」を終了した。

・・・【参加者の感想から】・・・

- 「立つことに意味がある」「持続可能な平和活動」素晴らしい言葉をたくさん聞きました。人と人の対話で核兵器廃絶は、きっと実現できると信じられると思った。若い方たちの行動素晴らしい。日本の未来大丈夫！
- オンラインでの講演でしたが、心に伝わる内容だった。年齢に限らず、時代に沿った訴え方や学び方は多様に考えなくてはいけないと感じた。
- 目指すものが同じとしても、そこに至るための手段にはさまざまあり、対話などを通し様々な視点からアイデアを出してアプローチして上げていくことが大事だと感じた。
- 「出会いに生かされて」この言葉に感動。若い人がここまで活動できるとは…広島県人の魂を感じた。坪井さんが写真の中の自分のことを涙ながらに話した講演を聞いたことがある。原爆で多くの人々が亡くなったが、若い世代が命の大切さを伝えるこれからの活動に期待したい。
- 若々しく力強い講演有難うございました。4人のリレートークも新鮮で誠実、積極的な内容で感動した。
- 8/6,8/9,6/23…の認知度に驚いた。若い人が様々工夫して行動する姿を見て、大人として恥ずかしいと思った。最後の「行動しましょう！」という言葉、胸に刺さりました。
- 悠太さんの講演が分かりやすく、何をすればいいかヒントを戴けた。「体験者は優しく強い」。悠太さん、19歳なのにすごい！
- コロナ禍、活動が制限され、署名行動もできないとあきらめていたが、もう一度自分の行動を考え直し署名を集めていきたい。若い方の行動力・発信力に驚いたが、世代をつなぎ、共にこれからも取り組んでいきたい。
- 署名をまだ行っていないところに行き、一筆でも増やしたと思いました。

7月9日、太平洋の島しょ国フィジーが39カ国目に
核兵器禁止条約を批准！ 国際条約発効にあと11カ国！

※「岩手の会」としての署名の最終集約は9月10日です！